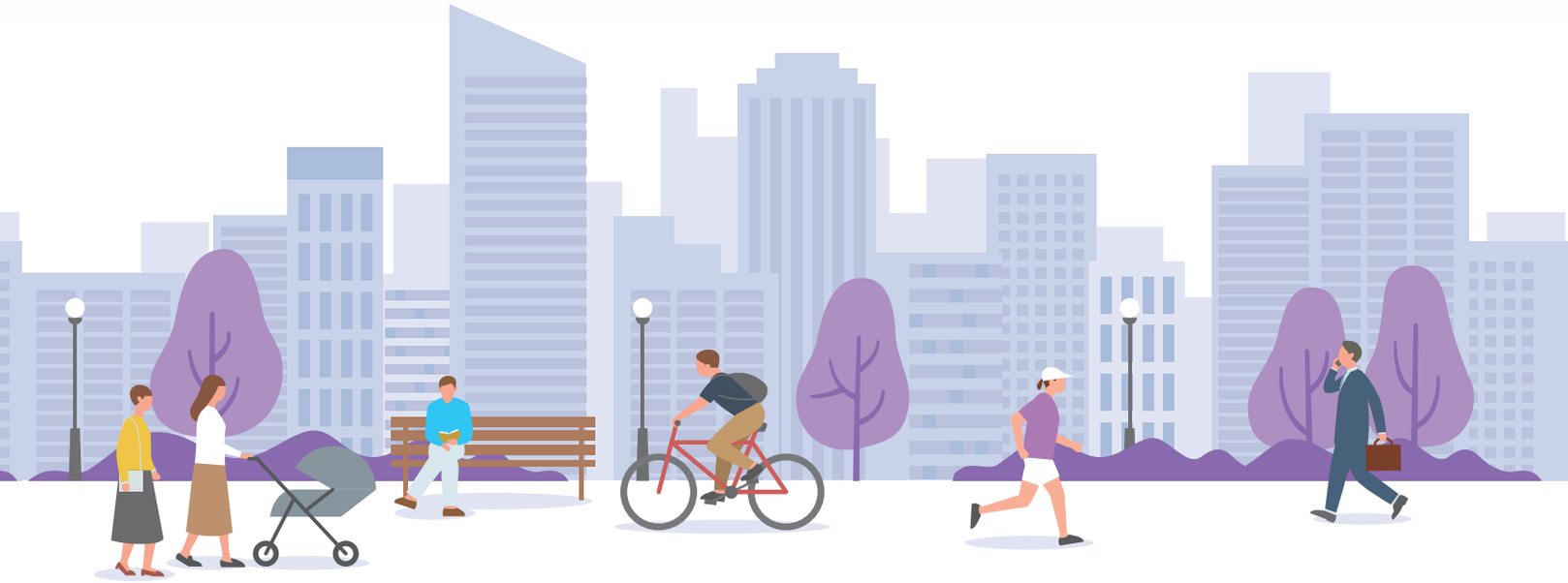
安心のために

知っておきたい「すい臓がん」のこと



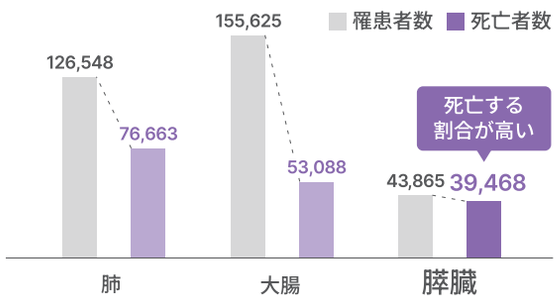
miSignal（マイシグナル）

がん基礎情報

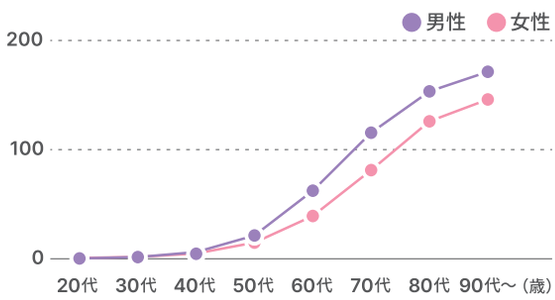
Q. すい臓がんとはどのような病気でしょうか？

すい臓がんの多くは、すい臓内の「膵管（すいかん）」に発生します。すい臓が体の深部に位置していること、早期のすい臓がんには自覚症状があらわれないことなどから、発見や治療が非常に難しいがんとされています。すい臓がんの罹患数は多くはないものの、全がんの中で男性で第4位(19,608人, 2022年)、男女合計でも第4位(39,468人, 2022年)のがん死亡者数となっており、男女共に死亡数の多いがんです。※1 男女ともに40代後半から罹患率が上昇することがわかっています。※2 加齢により、すい臓がんの発症リスクが高まることは確実ですので、気になる方はなるべく早く検査することをおすすめします。

がん種別罹患者数（2019年、男女計）と
がん種別死亡者数（2022 年、男女計）



年齢階級別罹患率
人口10万人あたりの罹患者数（膵臓がん、2019年）



Q. すい臓がんの兆候として、どのような症状に気をつけたら良いのでしょうか？

すい臓がんを疑う症状には以下のようなものがあります。※3

腹痛	食欲不振	お腹の張り	黄疸 （眼球や皮膚が黄色くなる）
腰や背中の痛み	原因不明の体重減少	急な糖尿病の発症・悪化	腹痛

ただし、初期のすい臓がんでは症状が現れにくく、また、これらの症状があった場合でも、すい臓がんとは限りません。何か気になる症状がある場合には、医療機関を受診することをおすすめします。

※1：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）
※2：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）
※3：国立がん研究センターがん情報サービス「膵臓がんについて」

すい臓がんは40代後半から罹患率が上昇。
気になる方は早めの検査行動や医療機関の受診をおすすめします。

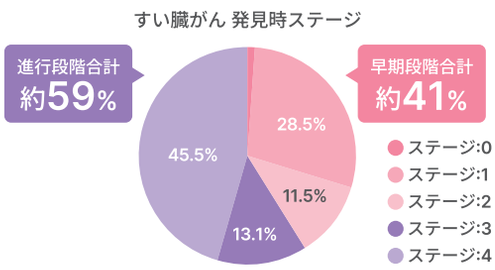
早期発見

Q. すい臓がんはどのように発症・進行するのでしょうか？

すい臓がんの多くは、喫煙や飲酒、肥満などにより、すい臓の細胞の遺伝子が傷つくことで発症します。生まれ持った遺伝子の異常によってすい臓がんのリスクが高い方もいるため、ダメージをできる限り避けることが重要です。初期のすい臓がんは症状がないことも多いですが、次第に増殖して大きくなり、全身に転移します。症状が出るころには、進行していることも少なくありません。腫瘍のサイズや転移の状況に応じて、0~4の5段階のステージに分類され、治療方法が決定されます。※1

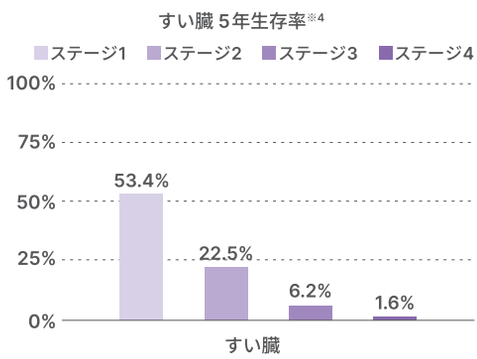
Q. すい臓がんはどの病期(ステージ)で見つかることが多いのでしょうか？

すい臓がんは最も進行したステージ4で見つかる方が約半数を占めますが、ステージ0～1で見つかる方は約30％います。たとえがんを発症したとしても、初期段階で発見できれば手術のみで治る可能性が高まり、身体的・経済的負担も少なく済みます。早期発見のための行動を強くおすすめします。



Q. 各病期(ステージ)の予後について、くわしく教えてください。

すい臓がんは5年生存率がステージ1でも約50％、さらにステージ4だと1.6％と生存率が極めて低くなります。すい臓がんはステージ1でも生存率が低く、非常に進行が早いがんであるため、がんにならないための生活習慣を整えるだけでなく、どれだけ早くがんを見つけられるか・治療を開始できるかが重要となります。がんの早期発見のためには、体の状態を定期的にチェックすること、異常を感じたら速やかに適切な医療機関を受診することが大切です。



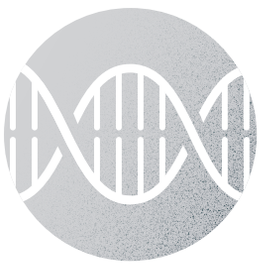
※1：国立がん研究センターがん情報サービス「すい臓がん 治療」
※2：国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録 全国集計(2021年)」
※3：国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録_5年生存率集計報告書(2014-2015年)」

すい臓がんの早期発見はより良い予後・より体への負担が少ない治療につながるため、とにかく早く見つけるための行動が大切です。

がんにならないための過ごし方

Q. すい臓がんにかかりやすい人の特徴、危険因子にはどのようなものがあるのでしょうか？

すい臓がんのリスクを上昇させる危険因子として、以下が挙げられます。※1



すい臓がんの家族歴

喫煙

飲酒

肥満

膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）

遺伝性膵炎

糖尿病

慢性膵炎

【喫煙・飲酒とすい臓がんリスク】

喫煙と飲酒は、すい臓がんのリスクを高める大きな要因です。喫煙は1.7 ～ 1.8倍、飲酒は1.1 ～ 1.3倍（アルコール摂取が24 ～ 50g/日の場合）、すい臓がんになるリスクが上昇することがわかっています※1。また、すい臓がんのリスクを13.3 ～ 16.2倍に増加させる「慢性膵炎」は、男性では飲酒が原因になることが最も多いです。※1,2 さらに、慢性膵炎の方の約40％が糖尿病を併発しますが、糖尿病はすい臓がんのリスクを約2倍にします。※3,4 禁煙と節度ある適度な飲酒が、すい臓がんのリスク低減につながります。

【遺伝とすい臓がんリスク】

すい臓がんは遺伝との関係が深いがんです。両親や兄弟姉妹、子どものうち、すい臓がんになった人が2人以上いる場合は家族性膵がんと呼ばれ、すい臓がんのリスクが上昇することがわかっています。※5 また、遺伝性膵炎（同一家系で2世代以上にわたって2人以上膵炎の方がいて、飲酒や胆石の関与がない、若いときに発症する膵炎）の方は、すい臓がんのリスクが大きく上昇することがわかっています。※4 リスクをさらに上げないためにも、喫煙・飲酒、食生活に注意し、定期的に検査を受けることが大切です。

※1：膵癌診療ガイドライン2022年版
※2：日本肝胆膵外科学会　急性膵炎と慢性膵炎
※3：日本内分泌学会　膵性糖尿病
※4：患者さんのための膵がん診療ガイドラインの解説
※5：国立がん研究センターがん情報サービス「膵臓がん　予防・検診」

すい臓がんの危険因子となる糖尿病や慢性膵炎、肥満の予防には、食生活の改善や適度な運動が大切です。できるところから生活習慣を改善してみましょう。

検査の流れ

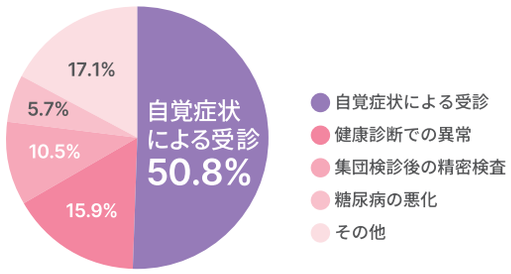
Q. すい臓がんを発見するためにどのような検査を受ければ良いのでしょうか？

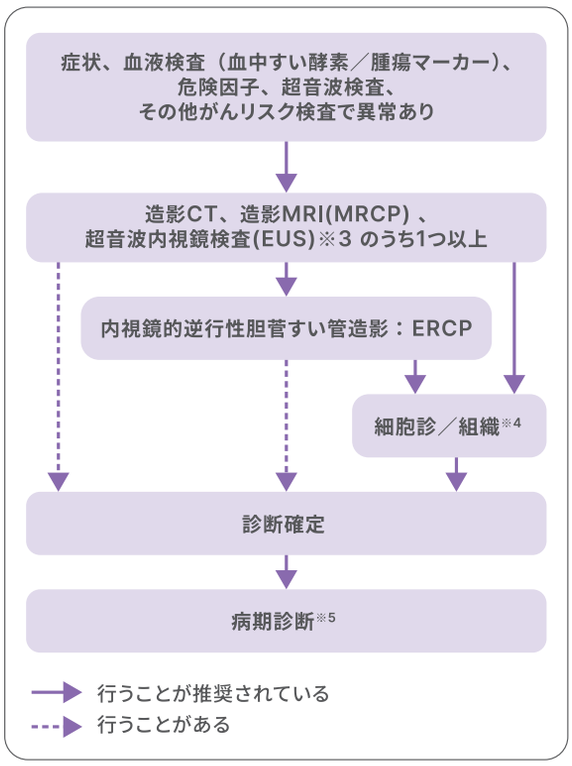
すい臓がんは、早期診断に有用なスクリーニング検査が確立されておらず、厚生労働省のがん検診の指針に「すい臓がん検診」がないのが現状です。すい臓がん発見のきっかけとしては、自覚症状があって受診したケースが約半数を占め、人間ドックや健康診断、他の病気の検査時や経過観察中に偶然見つかるケースが約30％です。※1

すい臓がん発見のきっかけになる検査が、血液検査（血清膵酵素、腫瘍マーカーなど）や画像検査（腹部超音波検査、CT検査、MRI検査など）です。これらの検査の結果や自覚症状、すい臓がんの危険因子の有無などから、すい臓がんが疑われる場合には、造影CT検査、MR胆管膵管撮影（MRCP）、超音波内視鏡検査（EUS）などの精密検査が行われます。※2

すい臓がんの早期発見は難しく、一般的な健康診断や人間ドックだけでは見つけられないことも少なくありません。そのため、マイシグナル・スキャンなどのがんリスク検査を組み合わせることが大切です。すい臓がんの早期発見のために、気になる症状があればすぐに医療機関を受診すること、検査を定期的に受けることを意識しましょう。まずはがんリスク検査を受けてみることから始めてみることをおすすめします。

すい臓がん患者さんの医療機関受診のきっかけ





※4：可能な限り病理診断を行う
※5：必要に応じて造影CT、造影MRI 、EUS、PET、審宜腹腔鏡を行う

※1：膵がん診療ガイドライン2019の解説
※2：患者さんのための膵がん診療ガイドラインの解説

普段から自分の体の状態に気を配り、何か異常を感じたら医療機関を受診しましょう。
症状がなくても、健康診断や人間ドック、がんリスク検査を活用することが大切です。

検査の特徴

Q. すい臓がんの発見に役立つ検査の種類や特徴について、くわしく教えてください。

すい臓がんの発見に役立つ検査の例として、3種類の検査を紹介します。

血液検査
（血清膵酵素と腫瘍マーカー）

血清膵酵素とは、すい臓で作られる酵素で、血清アミラーゼやエラスターゼ1などがあります。すい臓がんがあると、血液中に膵酵素が漏れ出て血清膵酵素が高値になることがあります。※1 腫瘍マーカーは、がんに特徴的なタンパク質などの物質です。体内にがんがあると高値になることがあります。※1 血清膵酵素と腫瘍マーカーは健康診断や人間ドックで調べられます（オプション検査の場合あり）が、すい臓がんがあっても高値にならないことや、他の病気が原因で高値になることもあります。血液検査だけでは、すい臓がんの発見は難しいことを知っておきましょう。

腹部超音波検査

お腹の上から超音波プローブをあて、臓器に反射した超音波の様子を画像化して内部の状態を確認する検査です。がんの発見に役立つ検査ですが、すい臓は胃や腸に囲まれているため、すい臓全体をチェックするのは難しいのが現状です。検査の数時間前から食事制限がありますが、痛みや放射線被ばくの心配はなく、負担の少ない検査と言えるでしょう。健康診断や人間ドックで調べられます（オプション検査の場合あり）。

尿検査

尿を採取し、尿中に含まれる物質を元にがんのリスクを判定する検査です。体内にがんがあると、がんの種類によって増減する物質があります。例えば、マイシグナル・スキャンでは「マイクロRNA」という物質の変化を調べ、がん種毎のリスクを判定できます。健康保険は適用されませんが、自宅で簡単に検査することが可能です。マイシグナル・スキャンの検査キットが届いたら、尿を専用の容器に採取後、返送するだけで完了です。病院への予約や受診、検査前の食事制限も必要なく、検査結果も自宅に届きます。

これらの検査を受けることが、すい臓がん早期発見の第一歩です。少し億劫に感じるかもしれませんが、ぜひ一歩を踏み出してみましょう。お忙しい方は、手軽にできるマイシグナル®から始めてみても良いかもしれません。

	血液検査（血清膵酵素、腫瘍マーカー）	喀痰細胞診	尿検査※
検査の概要	血液中の膵酵素や腫瘍マーカーの数値の増加を確認し、がんの疑いを調べる	超音波を用いて、がんの位置や形、臓器の形や状態などを調べる	尿中のマイクロRNAを抽出・測定し、AIによる解析を通じてがんリスクを判定する
検査の方法	採血	体の表面にプローブをあて、臓器からはね返ってくる超音波を画像で確認	尿を採取して郵送
検査前の制約	検査前の食事制限を指示される場合あり	食事制限あり	なし
身体的負担	針を刺すため、若干の痛みあり	なし	なし
公費負担・保険適応	なし	なし	なし

※マイシグナル・スキャンの場合

※1：国立がん研究センターがん情報サービス「膵臓がん　検査」

面倒かもしれませんが、すい臓がんのリスクが高い方・気になる方は
まず検査を受けることから始めてみましょう。

miSignal マイシグナル